

2002年2月 Radixの会 総会が開催されます!

Radixの会事務局長 竹内 周

9月2日、栃木県馬頭町・はるこま屋会議室にて、翌年2月に控えたRadixの会総会開催のための準備委員会が開催されました。

Radix

■新しいRadix 初めての総会

Radixの会として生産者、メーカーの皆さんが一堂に会するのは実に2年半ぶり。1999年6月以来となります。2000年度は役員非改選、2001年度は役員任期の6ヵ月延長を含む体制の拡充を理由に、現役員会決定として総会の開催を見合わせていただき現在に至っています。

今回の総会は、この2年半の総括を行ない、次年度に確実にこれを継承し飛躍の礎とする大切な場、と位置付けることができます。

この総会では、新役員の選任も行なわれる予定で、現在準備委員会にて内容の検討を進めています。準備委員は、斉藤公雄氏（Radixの会副会長・有機栽培あゆみの会代表）、五月女盛一氏（同副会長・はるこま屋）、後藤和明氏（特別会員副会長・らでいっしゅぼーや商品部長）と事務局竹内の4人構成。委員会での検討内容は「新役員の選任方法」「総会の開催内容」の2点。10月に予定の役員会での答申を経て決定します。内容詳細につきましては決定次第事務局よりお知らせさせていただきます。

Radixの会のあゆみ その1

Radixの会の設立と推進 1996～1999

Radix基準が出発点

Radixの会は1996年に刊行された「Radix 環境保全型生産基準要項」の理念に賛同する生産者・メーカーの皆様を対象として、環境保全へ向けた様々な取り組みを推進することを目的とする会として、らでいっしゅぼーやの提案により設立された会です。提案は1996年6

月。「らでいっしゅぼーや全国集会」のなかで、徳江倫明氏（らでいっしゅぼーや代表・当時）の呼びかけを全会一致で承認。Radixの会はここより正式に出発し、現在に至ります。

初代会長はらでいっしゅぼーやから

設立されたばかりのRadixの会は、会の活動を軌道に乗せるため、らでいっしゅぼーやが責任を持って進めるという意味合いから、活動の提案から推進までをらでいっしゅぼーやが行ない、これを会員である生産者、メーカーの皆さんが承認する、という体制で運営されてきました。初代の会長にらでいっしゅぼーや代表であった徳江倫明氏があたることとしてスタートを切ったRadixの会は、その後1997年、1998年、1999年と、らでいっしゅぼーや合同のRadixの会全国集会という形式で、らでいっしゅぼーや体制でのRadixの会の活動報告を行なってきました。

さらなる基準の整備

この間「Radix 環境保全型生産基準要項」の発刊、環境保全型養殖、容器包装に関連する研究活動、IFOAM（国際有機農業運動連盟）加盟と連携によるアジア型有機農業基準策定にむけた活動、生産者自主基準の策定に向けた活動などを進め、環境保全型生産者団体として現在に至る地盤を築いてまいりました。

このような活動によりRadixの会は、皆様の多大なご協力を得て、1996年から1999年までの3年間で、現在のらでいっしゅぼーや、ならびにRadixの会の理念的な基礎を確立してきた、と総括することができます。

……Radixの会総会。ぜひ多くの皆様の参加により、新たな年に向けて実り多い会にしていきましょう!

Radixを通じ、共に伸びていこう

Radixの会副会長・斉藤公雄



2年半ぶりのRadix総会。この間いろいろなことがありました。やっと落ち着きが見え、事務局も竹内局長のもと会報を発行、会員の皆様にも活動内容が見えるようになってきています。会報でご報告しています通り、会計についても明朗会計です。事業活動においては、「農産部会、畜産部会、食品部会、流通部会」の設立によって、より充実するようになりました。

すべてが循環型社会にむかって動き出した中、食品リサイクル法も施行され、私たちの暮らす社会

の、ここ数年の大きなテーマとなっています。

私たちは、この循環型社会の歯車のなか、いちばん大切な命の糧を預かっています。安全で安心な暮らしをめざし共に伸びる、共存共栄の社会を、Radixの会を通じて創り上げていきましょう。そして私たちの次の年をより良く築くためにも、来るRadixの会の総会には、ぜひ多数の皆様のご参加をお願いする次第です。

(有機栽培あゆみの会代表)